

COMPACT & CONFORTABLE



南面外観

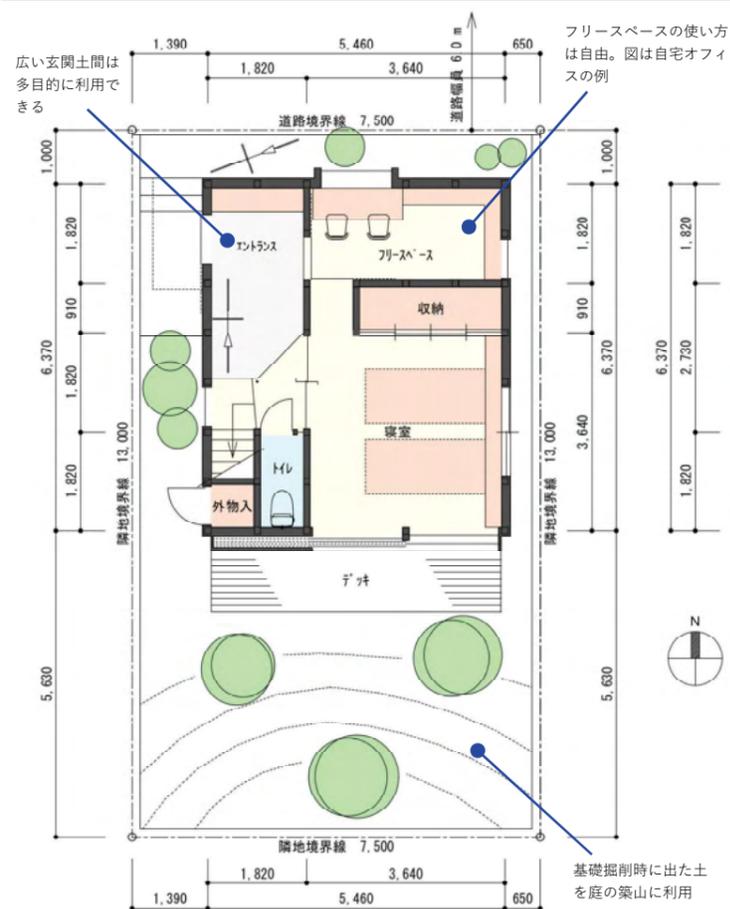


南東面外観



北西面外観

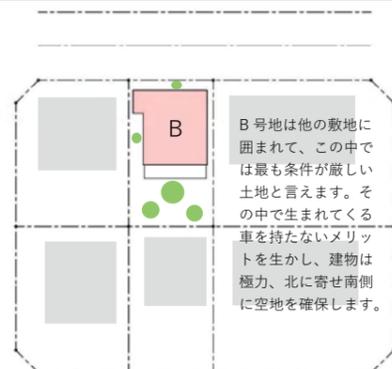
B号地への提案です。周囲を建物で囲まれた最も条件的には厳しい敷地と言えます。設定する家族像はご夫婦2人ですが、お子様が1人増える程度までなら対応出来ます。住環境を良好に保てるように長時間過ごすことになるLDKを上階に持ち上げた逆転型のプランとしています。日射取得は大きな開口を通し日射遮蔽は大きく飛び出た屋根と複層レイヤー化（ガラス戸、網戸、雨戸）した開口部の仕掛けにより行います。バルコニーは登り梁から吊る構造とし建物の軽やかさに印象を与えています。車を持たない生活での移動手段は2輪車や公共交通機関となり、CO2削減に貢献します。移動の足の盗難防止やメンテナンス、その他多目的利用が叶うよう玄関土間を広めに設定しています。1階北側のフリースペースは自宅オフィス或いは在宅ワーク、ウォークインクローゼット等として使用したり、お子様が生まれた場合には子供部屋としても利用できます。2階に設けた水回りからつながるサービスバルコニーは主に洗濯物干し場としての利用となりますが、西面は開口を目隠し格子により視線を防ぎながら風を取り入れ、同部南面の窓からは僅かながら陽射しを取り入れることができます。外構計画においては土壌に問題が無ければ基礎掘削の際に出た土を築山に利用し、場外搬出の削減に努めます。



1F PLAN



2F PLAN



2階建 プランニングの過程ではこれらのような案が出ました。PLAN IIは分棟型とし北側に2階建てを、南側は平屋としてプライバシーを守りながら採光を確保した中庭のある案です。

中庭

平屋部

テレビは置かないスタイルだけど、もし置くならば、ここに置くことも可能



SOUTH



WEST



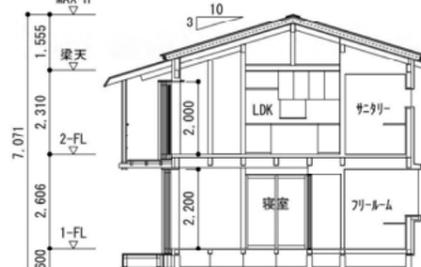
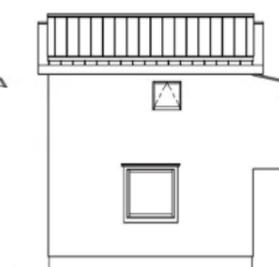
NORTH

総2階建 主居室を敷地北へ寄せる

隣地との距離を確保

PLAN IIIは総2階建てとしてL型の平面の凹んだ部分の南面から採光を確保し、隣地との距離を確保する案です。

今回設定された敷地の中では左記何れかの案の方がプライバシーを確保し易いことと思います。但し、これらのプランは、構造的な偏心も大きく、他の敷地では特殊解となりかねません。広く一般的に商品化されることを意識すると、ロングライフデザインの観点からも、ある程度まとまりのある矩形である方が構造的な面でも有利になります。もし屋根面利用する場合においても、その面積を大きく確保できます。この敷地では南の家の壁を見て生活することになり得るかもしれませんが、外構計画と植栽計画によってそれらは緩和出来ます。



SECTION

敷地面積	97.50 m ²	29.49 坪
建築面積	36.44 m ²	11.02 坪
1階床面積	34.78 m ²	10.52 坪
2階床面積	36.44 m ²	11.02 坪
延べ床面積	71.22 m ²	21.54 坪



2F LDK



2F LDK

COMPACT&CONFORTABLE

断熱材

建設時、運用時、廃棄時における視点で鑑みて廃棄時の処分のし難さから現場発泡系の物は使用しない。運用時の省エネ性への貢献から屋根面や床面にはフェノールフォーム系や押出ポリスチレン系、壁面には予算帯に応じ、木繊維系、セルロース系、高性能繊維系の物を採用する

構造体

建築地から可能な限り近い産地で獲れた材料を利用すること。1本の木の歩留まりが上がるような木取りを考え構造材、仕上げ材、羽柄材などが無駄なく獲れるように木の使い方を検討する

基礎コンクリート

製造時のエネルギーは大きくなるが再生コンクリートとしての利用が可能であること。現代の住まいづくりにおいてコンクリート基礎が圧倒的に普及している耐震や耐久性を考えると必要な素材と考える。但し構造体以外の外構等の部分への使用は極力抑える

LDK

限られた面積の中で動ける範囲は限定されますが、バルコニーを空間に取り込めば、その範囲が広がります。気候の良い時には窓を開放しその気積を増やし、対角線に延びる目線の作用によって小さくても心地よい伸びやかな空間となります。又空間を縦に利用することで広がりを感じることも出来ます。台所上にロフトを設け、収納上部にエアコンを仕込み室内環境を揃えます。

寝室

ベッドを2台置いてもゆとりのある寝室は頭の上と奥の浅い棚を設け隣接するフリースペースとは収納を挟んで繋がります。寝室を真壁にしたのは、より木が見える部分を増やすことで木組みの良さを感じるためです。東面の壁を窓下まで板張りすることで、ピンナップしたり棚を設けたり壁面を利用する際の自由度が上がります

玄関ホール

広い玄関土間にすることで利用方法が増えます。階段の1段目と玄関土間の段差レベルが丁度、椅子に腰を掛ける高さに当たるため、そこに握り棒を設けることで、年齢を経ても立ち上がる際の補助にもなります。階段横に設けたトイレはフリースペースを自宅オフィスにする際は勿論、子供部屋とする際にも、ご家族が利用するにしても使いやすい位置にあります。



フリースペース



サニタリー



1F 寝室



1F 寝室



玄関ホール



玄関ホール